

*この実施フローは、【通信コース】の受講生の方が対象となります。

対象科目

平成19年度から平成13年度の過去本試験事例（7年間・28事例）

設問分解練習は【2種類】（AパターンとBパターンがあります）

Aパターン ゴール：「どのような答案を書くのかを推測すること」の練習

Bパターン ゴール：「なぜ、その答案を書いたかを証明すること」の練習

<パターンAのポイント>

ミクロ的なアプローチ

答案に表現する「主述の関係」を特定すること。

作成した答案の主述から題意を採点者へ伝える！

「出題字数」から文章構成を特定すること。

出題字数ごとの各自の答案作成対策を事前に準備しろ！

「複数個の出題」から「もれなくだぶりなく」の関係を特定すること。

出題者が複数個として出題した意味（理由）を常に考えよ！

「(上記以外の)制約条件」から「与件情報」を特定すること。

どの与件情報を活用して答案を作成するのかを常に考えよ！

マクロ的なアプローチ

設問全体から事例のテーマを30字程度で表現できるようにすること。

大きな柱（診断助言のテーマ・目的）を見失うな！

設問ごとの戦略レベルを特定すること。

設問ごとに経営戦略フロー上の位置づけが必ずある！

設問間の関連性を短時間で構造化できるようにすること。

全体の提案書としての一貫性や整合性を見失うな！

<パターンBのポイント>

解答例の提示

まず、AASの解答例もしくは個人で作成した答案をマス目に転記すること。

設問の写経

設問を一字一句、出題者の気持ちを常に考え写経すること！

題意の把握

題意を作成する意味は、文章要約力を鍛えていることである！

制約条件

答案を作成したときの制約条件はすべてあげること！

与件情報

答案を作成したときの与件情報を、ズバリどの箇所なのか？どの文字なのか？が伝わるように箇条書きであげること。

解答ロジック

作成した答案を「論理の構造化」で図示し、論理性を検証すること！

* 思考プロセスが伝えられない答案は思いつきで作成した答案として伝わってしまう！

実施方法

受講生サイトから各事例の設問文や与件文をダウンロードしてください。

各事例最低3回転できるように自宅学習を計画的に進めてください。

前述した2つのパターンのポイントを踏まえて練習した結果を提出してください。

2つのパターンの見本版はダウンロードできますので、ご参照ください。

提出にあたっては、「本科受講番号」「回数」と「氏名」を必ず記入してください。

実施にあたってご質問がある方は、ご遠慮なく、本科通信MLに発信してください。

AASからのフィードバック方法

提出していただいた設問分解シートは、講師が添削を実施します。

振り返りコメントを、本科通信MLにアップします。

添削したシートは、週に1回のペースで「メール便」にて返却いたします。

優秀な方のシートは、専用サイトで公開させていただきます。

設問分解練習のゴールを図示しますので、再確認しましょう！

